

ササゲの栽培

1. 品種特性

「奈川系」

松本市奈川地域（旧奈川村）で栽培されている在来種。蔓なしの矮性、豆色は赤色で小豆によく似ているが、やや大きく腎臓形をしている。乾燥に強く栽培容易。小豆の代わりとして赤飯に利用される。

2. 土づくり

深さ 12～15 cm の畦溝を切り堆肥施用、野菜の後作では無肥料で栽培する。

ササゲを交えた輪作の例としては、ササゲ→ムギ（アカクローバ草生）→ダイズ→ジャガイモ→秋野菜（3年5毛作）

3. 播種

播種時期：冷涼地 5 月中旬～6 月上旬、温暖地 5 月上旬～7 月下旬

播種量：奈川系：小袋（40ml：200 粒）で 3.5 坪（畝幅 60 cm、株間 30 cm、1 穴 3 粒播き）

鹿児島系：小袋（40ml：500 粒）で 9 坪（畝幅 60 cm、株間 30 cm、1 穴 3 粒播き）

播種様式：②点播き：畦幅 60 cm 株間 30 cm 内外、一カ所に 2～3 粒播く。肥沃地は株間を広くし 2 粒播き、痩せ地は株間を狭くして 3 粒播きにする。

覆土： 3～4 cm

4. 管理作業

間引き： 間引きは行わない。

除草： 幼苗期は生育が緩慢で雑草と競合しやすいため、除草を丁寧に行う。

土寄せ： 播種後 30 日ころ倒伏防止と除草を兼ねて株もとに土寄せを行う。

5. 収穫・調整

収穫： 莢の先が反り返り、捧げるように莢が葉の上に出てくるので、成熟して黄変した莢から収穫する。一斉に熟さないので、2～3 回収穫する。

脱穀調整： 莢をシートの上に広げ、莢がはじけるようになるまで天日乾燥させ、棒でたたき脱穀する。虫食い粒やゴミを除いてから缶に入れ、冷暗所で貯蔵する。（高温期に入ると蛾が発生しやすい）。

6. 利用のしかた

赤飯、煮豆、アン